

# 令和2年度調査研究報告書

## 肢体不自由者における化粧支援の必要性に関する研究

長野大学 社会福祉学部 端田専門ゼミナール

F18114 畠山咲

指導：端田篤人准教授

## 目次

1. はじめに	1
2. 目的	1
3. 障害者における化粧の現状とその効果	2～4
4. 調査方法と結果	4～8
5. 考察	9～10
6. まとめ	10～11
7. 謝辞	11
参考文献	12
付録	13～18

## 1. はじめに

障害者の日常生活を支援することを目指したゼミナール研究を始めるにあたって、自分自身が日常的に行っていることとして最初に浮かんだことは化粧であった。一般的な化粧では様々な種類の化粧品や化粧道具を使うことから、技術やセンスが求められる。例えば、アイラインを引いたり、ビューラーでまつ毛を上げたりするような化粧技術の習得は一朝一夕にはいかになく、日常的な練習を積み重ねる必要がある。さらに、微妙な濃淡を表すために鏡を見ながら時には指先を巧みに使うなど、視覚と上肢などの身体機能に大きく依存している。障害を持っている人はどのように化粧を行っているのか、自分自身で化粧を行っているのか、それとも介助者に化粧をしてもらっているのか、さらには化粧の効果について現状を知りたいと感じた。また、これまで高齢者施設や障害者支援施設などで実習や施設見学、ボランティア活動を経験してきたが、日常生活動作(ADL)において整容に占める時間的な割合が短いように感じた。生活支援施設などでは食事や排せつなどへの支援が重要視されることは当然であるが、整容に対する意識を高めることで生活の質(QOL)を向上させ、より良い暮らしにつながると考える。整容の中でも洗顔、洗髪は衛生面から必要であるが、「化粧」は生命の維持に直接関わるものではないため、支援における優先順位が低くなる。化粧は社会参加や自己表現するための社会資源であり、障害者支援の中でさらに取り組むべきテーマであると位置づけるためにも、現状を調査し、障害者の化粧を広めるために必要となる課題について考えたい。

## 2. 目的

私たちは人と会うときや外出するときなど身だしなみを整えるという動作を日常的に行っている。頭髪を整え、髭剃りや化粧をし、TPOに合わせた衣服を選択するなど、学生であっても男女を問わず毎日整容を行っているはずである。昨今では、男性用化粧品やジェンダーレスなアイテムがドラッグストアといった身近な場所に並び、性別や世代を問わず、化粧の需要が高まっている。化粧の目的として、社会人としてのビジネスマナーであり、なりたい自分を創造する自己表現のツールでもある。化粧を通して胸が弾んだり、幸せな気持ちを感じたりした経験がある人もたくさんいるはずである。一方で、身体機能の低下により、身だしなみを整えることを面倒に感じてしまい、化粧を諦めてしまう方もいる。障害者が化粧をするという選択肢を広げるためにも、整容の質的向上や具体的な化粧支援をソーシャルワークの視点から検討し、化粧の効果や具体的な実践方法について調べていく。特に、上肢に機能障害がある人でも化粧をすることが可能となる方法についてまとめる。本研究により、障害者への化粧支援が広がるとともに、性別や年齢、障害の有無にとらわれず化粧を思うままにできる社会になることを願う。

### 3. 障害者における化粧の現状とその効果

#### 3-1 化粧の効果、特に QOL 向上について

化粧の個人にもたらす効果としては、リラクゼーション効果、自尊心の向上や自己の満足感、コミュニケーションの活性化<sup>1)</sup>があげられる。友人同士で化粧の出来栄を褒め合ったり、魅力的な化粧品について情報を共有し合ったりするといった経験を多くの人が行っているだろう。化粧は自分のコンプレックスを解消してくれるとともに、魅力的な部分を最大限に引き出してくれる。日常的な化粧以外にも、結婚式や成人式、入学式、卒業式、発表会などの特別な場面でも化粧を行う。いつもより凝ったメイクを施すことにより、気持ちが高揚したり、非日常を感じたりすることができる。化粧は特別な日を彩る一つのツールである。

化粧の社会にもたらす効果としては、コミュニティの形成があげられる。近年では、SNS やアプリ、ブログ、雑誌など様々な媒体で化粧についての情報共有が行われている。特に、YouTube で化粧方法や新作化粧品などの紹介をしている人も多い。コメント欄がファンのコミュニティの場となり、化粧が人と人をつなぐ話題となっていることから、人々の QOL 向上としての意義は大きい。

#### 3-2 障害者における化粧支援

視覚障害者への化粧支援としてブラインドメイクが有名である。ブラインドメイクを世界的に広げるようなプロジェクトも進められている。一般社団法人日本ケアメイク協会では、視覚障害者の発案により、ユニバーサルデザインパレット<sup>2)</sup>を開発し、視覚障害者への化粧支援というものを積極的に行っている。

精神障害者への化粧支援は、リハビリテーション領域において整容動作の中に化粧を取り入れた SSPC(生活と化粧を関連づけた社会参加支援プログラム)というものがある。精神科病院に入院中の女性患者や地域に住む精神障害をもつ女性を対象に実施した研究<sup>3)</sup>がある。SSPC を実施した結果、退院への意識変化や日常生活活動へ肯定的な変化が認められた。SSPC についての詳細は後述する。

肢体不自由者への化粧支援は、視覚障害者や精神障害者への化粧支援と比べると身体運動機能が多様であることから支援ツールが確立されていない。肢体不自由といってもそれぞれの障害によって特性が異なり、視覚障害者や精神障害者への支援のように統一したアプローチを行うことが困難である。例えば、高次脳機能障害では、顔の左右で化粧ムラが生まれてしまうことや、バランス感覚や色味の統一が難しい場合がある。また、上肢運動機能の低下では、化粧品の蓋を開けたり、指を使ってぼかしたりすることが困難になる。中途障害者であれば、普通に化粧をしていた以前の自分とのギャップのためか、障害を持ったことを機に、化粧をやめてしまうこともある。このような多くの課題を如何にして解決してゆくべきか。本研究では化粧を日常化・習慣化することが重要であり、障害者自身が自ら化粧を行うために必要な環境を整える支援が必要であると考えられる。

### 3-3 SSPC とは

SSPC(生活と化粧を関連づけた社会参加支援プログラム:Supporting Social Participation through a Cosmetic program)とは、化粧品メーカーと共同開発をした作業療法の視点からの化粧支援である。クライアントが化粧を日常的に取り入れ習慣化することと、自分自身の生活を振り返る中で、個々の課題に取り組む能力を習得してもらうことを目的<sup>1)</sup>としている。プログラムは学習会と化粧実践の2部構成になっており、2週間に1回、4ヶ月で合計8回実施する。学習会では、化粧に関する講義を行ったり、睡眠や食事、運動など自分自身の生活を振り返って健康的な暮らしについて考えたりする。化粧実践では、「自然で美しい化粧」を目指し、化粧技術の習得を図る。プログラムの実施結果としては、化粧や健康に対する関心度が向上し、化粧品を所有するといった化粧の習慣化につながり、QOLの向上がみられた、と示されている。ソーシャルワーク領域におけるソーシャルスキルズトレーニング(SST)との類似性があることから参考にする事とした。

### 3-4 SST とは

SSPCと同様に、学習会と実践を組み合わせて行うソーシャルワーク分野の支援方法にSST(ソーシャルスキルズトレーニング:Social Skills Training)というものがある。ソーシャルスキルとは、社会のルールに合った社会的に容認できる人付き合いをするための対人行動のことである。SSTはソーシャルスキルを改善することを目的とする。SSTの実践方法は、まず課題となるソーシャルスキルをステップに分解して学習を行う。その日に学ぶソーシャルスキルの意義やステップの説明を行う。次にリーダーによるモデリングを行い、モデリングを基に、参加者がロールプレイを行う。その後、正のフィードバックや修正のフィードバックを行い、フィードバックを踏まえて再ロールプレイを行う。最後に、次回に向けた宿題設定をし、プログラムが終了となる。SSTはグループで実施し、週に2回半年かけて経過をみる。SSTの効果として、高次脳機能障害者に対して実践を行った研究がある。認知機能や障害の自己認識、遂行機能障害、社会参加の状況に変化は見られなかった。一方で、気分の変化に対しては大きな効果がみられた。SSTを実施する前よりも、安定した気持ちになったという結果になった。本人の主観によるが、自己効力感が高まった<sup>4)</sup>といえる。

### 3-5 ICF とは

人間の生活機能と障害の分類法として世界保健機関(WHO)から採択された国際生活機能分類(ICF)というものがある。障害を生きることの全体像として捉えるために、ICFについて理解を深める必要がある。ICFは、「障害」を「心身機能と身体構造」「活動」「参加」の3つの次元に分けている。これらの3つの次元の背景には「環境因子」と「個人因子」がある。「環境因子」は物理的環境や社会的環境、人々の社会的態度など促進的側面と阻害的側面の両方を持つ。具体的には、車いすや住居、自然環境、社会福祉制度、家族など

のことをいう。「個人因子」は性格や気質など個人的な特徴のことをいう。このように、障害は個人の問題だけでなく、環境などとの相互作用のなかで成立するものである。

#### 4. 調査方法と結果

まず、事前調査として肢体不自由者における化粧支援についての研究を進めるうえで必要と考えられる化粧に関する論文や情報サイト Google を用いて検索、情報収集を行い、その内容をもとに当事者に対して聞き取り調査を実施することとした。

##### 4-1 事前調査について

論文については、まず、長野大学 OPAC を利用して「化粧」で検索を行い、528 件のリストを得た。しかし、デザイン学や心理学などに関するものが主であった。次に、「化粧 整容」「化粧 ADL」で検索を行ったが、該当するデータが存在しなかった。そこで、「化粧 生活」のキーワードを中心に、CiNii Articles を利用して文献を検索し、241 件のリストを得た。その上で、化粧支援についての論文を中心に大学図書館より 5 件のコピーを入手することができた。このうち、石橋仁美氏による SSPC に関する論文を詳読することで、作業療法学における化粧の意味について理解を得ることができた。

具体的な化粧の方法等については、インターネット Google にてキーワード「化粧」「障害者」などを検索し、実際に障害当事者によって運営されるサイトなどを中心に動画などを視聴した。インターネットのコミュニティサイトには身体障害者である女性が、どのように化粧を行っているか尋ねるトピックがあった。「化粧をしたいが障害があるため化粧品を使うことが難しい」「すっぴんのまま居続けるのもいい加減辛い」という悩みが記載されていた。コメント欄では、チューブ状の化粧品やポンプタイプのもので使いやすいなど情報共有が行われていた。また、障害当事者が、YouTube チャンネルで自身の化粧の仕方を発信しており、その内容を参考にした。化粧品などを紹介する YouTube r の動画を視聴し、画期的な化粧品に関する情報を収集した。Google で「YouTube 化粧」と検索すると約 2,410,000 件、「YouTube 化粧 障害者」で検索すると約 64,500 件ヒットする。(2020 年 12 月 15 日現在)そのうちの 20 件ほどの動画を視聴した。障害当事者が発信する YouTube チャンネルを視聴した際、「化粧を自分でやりたい」という発言があった。コメント欄では、YouTube チャンネルを閲覧した障害当事者が「細かくお化粧の仕方を見て感激しています。」という前向きなコメントがあった。さらに、化粧をする際に使用する自助具についてインターネットを用いて検索した。化粧道具のキャップを立てておくために、スポンジとペン立て、滑り止めシールを使用し、スポンジの間にキャップを挟めるような自助具があった。また、神戸医療福祉専門学校三田校義肢装具士科の学生が作成したもので、アイライナーなどのキャップを片手で開け閉めできる「Bijou【ビジュウ】」という自助具がある。持ち運び用クリームケースの中心に鉛筆グリップがあり、グリップに化粧品を固定できるようになっている。グリップの直径は約 9mm で、市販のアイライナー

やアイブロウペンシルなどの蓋がついている化粧品のほとんどに対応することができる。樹脂粘土の上から汚れても手入れがしやすいよう、レジソコーティングがされている。ケースの下にはお風呂場用の吸盤が貼り付けられており、軽い力で机等に固定することができる。パステルカラーやグリッターが持ち入れられ、デザインにもこだわっている自助具である。これらの自助具は「付録」にて画像を掲載する。

#### 4-2 聞き取り調査と結果

事前調査を踏まえ、実際に障害当事者の方に化粧に関する意見を聞くことが必要と考え、教員より紹介を受けた方にメールを用いて遠隔の聞き取り調査を行った。2020年7月11日～2020年7月19日の期間、6往復ほどやりとりを行った。対象者(以下A様とする)は40代女性、頸髄損傷による四肢麻痺、機能レベルC6B2である。以下、質問項目と回答内容についてまとめたものを記載する。

##### 【質問1】

文献<sup>5)</sup>を読んでいたところ、整容動作はADL評価法のうち食事動作や排せつ動作と同等に扱われるとありました。しかし、患者の整容に対する自立心(要望、要求、希望など)によっては支援に含むか否かが変わってくることも記されていました。整容動作は生命維持に必要な動作ではないため、支援者側が「プラスアルファ」として扱ってしまうという現状は課題であると感じます。リハビリテーションなどの中で、整容について重きをおくことは実際の支援において後回しにされてしまうのでしょうか?

##### 【回答1】

貰える時間数が少なく、やはり生命維持に必要な支援を優先して、実際の介助メニューに入れる方が多いように思います。自立生活センター系の介護事業所は、整容にも理解が深いので、時間数が足りれば行っていただけるように思います。

##### 【質問2】

『障害者の社会参加促進等に関する国際比較調査の概要』<sup>6)</sup>をみると、「障害のある人は障害のない人と同じような生活を送っていると思うか」という質問に対して日本では3/4の人が「そう思わない・あまりそう思わない」と回答しているのに対し、ドイツでは約8割の人が「そう思う・ややそう思う」と回答していました。この結果を受け、海外、特に欧米先進国と比較して、日本の障害者はオシャレを楽しめないという状況があるのではないかと考えましたが、飛躍しすぎでしょうか?

##### 【回答2】

「化粧はマナー!? ヨーロッパ人女性が化粧をしない理由(OTEKOMACHI 2018.12.14)」<sup>7)</sup>にあるように、お化粧に関しては、健常者も、ドイツなどはあまりされないそうなんです。なので、一概には比較出来ないように思います。

### 【質問3】

整容動作についてインターネットや文献で調べていたところ、日本においては、整容にまつわる自助具の利用が多くヒットしました。ストローの先にコンタクトレンズをつけて片手で装着する装置や、ケースの中にスポンジを入れてマスカラやリップを固定し、片手でもキャップを外しやすくするような自助具がありました。また、YouTubeで自身のメイク動画を配信する外国人の方<sup>8)</sup>を見つけ、メイクブラシ等を義手の先に挟んでメイクを行っていました。このような自助具や義手などを使用して身だしなみを整えたり、メイクを行ったりすることはA様の周囲の方も含め日常的なのか、知りたいです。A様ご自身が四肢麻痺とのことですが、自助具をどのような場面で利用されているか、よろしければお教えてください。

### 【回答3】

四肢麻痺の女性で、自助具を使用して身だしなみを整えている方は、多いと思います。ただ、親しい四肢麻痺の友人は、私(C6B2)より重度で、介助者か、お母さまに身だしなみを整えてもらっているようです。私自身は、中学2年生で受傷して、書字、食事、歯磨きの自助具を使用していました。ただ、今は、手の間に挟むなどの工夫で、書字、食事、歯磨きの自助具を使用していません。お化粧品も、自助具無しですが、アイラインを引くのに、自助具があった方が、もっと上手く引ける気はします。髪を整えるのは難しいので、母や介助者を入れている時は、介助者に、カーラーなどで髪を巻いたりしてもらいます。年齢的に、白髪染めも。でも、時間が掛かるので、ウィッグ利用も有効かな?とは思っています。

### 【質問4】

さらにお化粧品に絞り込んでインターネットを調べていると、障害をお持ちの方が個人のブログで化粧をするときに使う自助具の紹介をしていたり、使いやすい化粧品(例えば、グラデーションが完成しているアイシャドウで付属の筆を使用しそのままなぞるだけできれいにアイメイクができるもの)を発信していました。SNSやアプリなどで多くの化粧品がレビューをされていますが、障害を持っている方が化粧品選びの参考になるようなサイトや情報発信している個人のサイト、あるいはSNSなどはありますか?

### 【回答4】

特に、参考にしていない SNS はありません。化粧品会社に勤めている時は、社内販売でお化粧品が買えるので、BC(ビューティーコンサルタント)さんに、購入のときにお聞きしたり(大学生時代から、購入の際、聞いて習っていました)、ちょっとしたパーティーに参加するのに、メイクやヘアメイクをしてくれるお店でお化粧品をもらった際、コツなどを聞いたりしました。

**【質問 5】**

メイクはベース、アイメイク、リップメイクなどとステップが多く、メイク技術を上げるには何度も練習が必要であると感じます。私もアイラインの引き方や、眉毛の書き方は現在進行形で研究中です。実際にメイクをする中で、A様はどのような場面で難しさを感じますか？また、A様のお知り合いにも同様に化粧に関する問題を抱えている方はいらっしゃいますか？それはどのような障害がおりで、メイクをする過程でどのような課題をお持ちなのでしょう。

**【回答 5】**

アイラインです。細く引くのが難しいです。親しくしている四肢麻痺の友人は、介助者の方がされるので、分かりません。

**【質問 6】**

調査をしていくと、化粧品販売B社では一般向けのビューティー講座だけでなく、ADL向上のために高齢者や視覚障害者を対象にした整容講座を実施していると知りました。参加者からの講座に対する評価や満足度などが公表されているようであれば知りたいです。また、福祉における化粧療法の必要性についてB社としての方針などが記載されているページなどはありますか？あるいは問合せてお教え頂けるような部署があるのか教えて頂きたいです。

**【回答 6】**

勤務していた部署は、総務関連の部署だったので、満足度に関しては、分かりません。セラピストの資格制度があるようです。化粧療法に関しては、以前、B社で行われた講演で、聞いたことがありましたが、詳しいことは分かりません。すみません。偉い方も、結構、老人ホームに化粧セラピーに参加していらっしゃいました。お化粧で、女性高齢者のおむつが取れた事例もあるとか？

**【質問 7】**

化粧は自分の魅力をさらに引き出したり、反対にコンプレックスを解消してなりたい自分に変身することが可能であるなど、多くの可能性を秘めていると感じます。新しいコスメティックを使ってメイクをした日のルンルンした気持ちや、メイクが上手くいったときの自信はすべての人が抱いたことがあると思います。障害の有無やジェンダー、年齢などにとらわれずにメイクの楽しさ伝え、自分自身をアップデートしていくサポートを行うことは重要であると感じます。福祉分野における化粧療法の重要性や利点についてA様はどのようにお考えか教えて頂きたいです。

**【回答 7】**

障がいの有無に関わらず、その人のニーズが満たされることは、重要だと思います。障がい者施設に、当事者委員として関わったことがあります。白髪でお化粧をしていない、特に、中途障害者女性の顔は、かなり死んで見え、自信を失い、笑顔が消えているように見えました・・・(自分が髪を染めて化粧をしたい派だからかもしれませんが・・・)他の理由もありますが、そのような姿を見せると、施設には入りたくない・・・、何とか自宅で一生を終えたいと言う気分になります。出掛ける時に、ヘアメイクが整っていないと、あまり出掛けたくありません。生命維持以外に、整容の出来るくらいの介助時間数が必要だと思います。

**【質問 8】**

化粧品を買いに行くと、BA(ビューティーアドバイザー)さんがおすすめの商品を教えてくれたり、メイクに対するアドバイスをしてくれたり、スペシャリストとして私たちに対応してくれます。私は、BAさんは美しさや華やかさがあり、キラキラしていてとても憧れます。接客等指導を受けていると思いますが、障害を持つ方への対応はどのような教育がなされていますか？また、A様が実際に店舗に行き、不安を感じる対応等を受けたご経験がございましたら教えてください。

**【回答 8】**

教育については、美容部門ではなかったもので、その辺は分かりません・・・すみません。恐らく、障害を持つと言うより、顧客のニーズ合わせた対応をするように教育を受けているのではないかと思います。化粧品を購入する際、ただ綺麗に化粧をしてもらって、その商品を買って行きたいのに、あまりにも、障害者を意識し過ぎて、自分でやらせたりさせられ過ぎると、嫌な気持ちになります。

**4-3 調査結果のまとめ**

聞き取り調査を行った結果、介護の現場では、整容に関する支援よりも食事や排せつといった生命維持のための支援のほうが重要視されている(回答 1、7)。障害の有無に関わらず、その人のニーズが満たされることが重要で、整容への支援に時間をかけることも必要である。また、当事者は自分で自助具を使って化粧や整容を整えている人もいれば、介助者にやってもらっている人もいる(回答 3、5)。肢体不自由者向けの化粧品をまとめた情報サイトなどは本調査では確認できず、肢体不自由者が美容部員等プロの方に化粧の方法やコツを聞いているのが現状であった(回答 4)。化粧品の蓋を開けるための自助具だけでなく、実際に使用する際に化粧品を固定できるようなサポート具というものも求められている。さらに、化粧セラピーの実践なども展開されており、福祉分野で化粧が支援の一つとして取り入れ始めていることが分かった(回答 6)。

## 5. 考察

整容の質的向上や具体的な化粧支援をソーシャルワークの視点から検討するため、作業療法の視点からの化粧支援である SSPC とソーシャルワークの支援方法である SST を比較してみる。すると、学習会を設け自身の課題を明確にし、実践していくという方法が類似している。どちらも QOL の向上や日常的な意欲・気持ちの安定につながるという効果が見られる。化粧を日常化するためのリハビリテーション技法としての SSPC と、社会性を獲得するための方法論としての SST を組み合わせることで、化粧技術を習得し社会との関わりが開かれることにつながる効果が期待できると考え、支援の流れについてひとつの提案をしたい。

- ①化粧のステップを簡潔にまとめて説明を行う。(学習会)
- ②支援者によるモデリングを行う。
- ③参加者による実践を行う。
- ④正のフィードバックを行う。
- ⑤宿題設定

この中で最も大切なことは「④正のフィードバック」である。良い点を伝えたり、褒めたりすることでクライアントにとって自信が生まれる。化粧を行うことによって、周囲からポジティブな評価を受けることで自己肯定感が高まるという効果が得られるはずである。化粧に興味を持ってもらうことで、生きがいにつながる可能性が生まれる。実際に、自身でも鏡を見て変化を感じることができ、「結果が目に見えてわかる」という点で化粧支援の大きなメリットである。福祉の実践では、目に見えないサービスがほとんどであり、形が残らないものに対してクライアントが評価を行っている。化粧支援は形が残らない「化粧のやり方や技術、知識」と形が残る「化粧をした自分の姿」の両方を支援内容として実施することができる。よって、さらに高い満足度を得られニーズを満たすことが可能になるのではないだろうか。また、化粧支援を行ううえで、長期的な支援体制を作り、スモールステップを積み重ねていくようなプログラムにする必要がある。化粧の技術を習得し、日常化することが目的であるため、時間をかけてプログラムを進めることが肝要である。さらに、支援者を固定するなどし、ラポール形成が進行するような工夫も必要である。

次に、障害理解のための「生活モデル」として化粧支援の有効性を検証してみたい。生活モデルとはジャーメインにとって提唱され、環境は個人に影響を与え、個人も環境に影響を与える存在であるという人と環境の相互作用に目を向けた考え方である。また、「3-5 ICF とは」で述べたように、人間の生活のしづらさの背景には個人因子と環境因子が関係していると言える。ソーシャルワークは医学モデルから脱却し、個人因子だけでなく環境因子も視野にいれ、「人」の側に立って支援を進めていかなければならない。この考え方を化粧支援にあてはめると、どれだけ多くの人が化粧をするようになったのかも重要であるが、一人ひとりがどのように変わったのかに焦点をあてる必要がある。また、肢体不自

由者が日常的に自力で化粧を行うためには、環境設定が必要不可欠である。事前調査などから介助者やヘアメイクのプロに化粧を行ってもらっている当事者もいると分かったが、毎日化粧をしてもらうとなると介助者の負担や金銭的問題も発生する。環境を整えることは、自身でできることや選択肢が増えることにつながる。道具が増えれば能力が増えるという相互作用であり、自力で化粧を行うことができるようになる。この「道具」というのは具体的に機能性が高く、障害があっても使いやすい化粧品や化粧をしやすくする自助具のことを指す。障害特性に合わせた環境設定や化粧品、自助具が化粧を自分で行いたいと思う当事者に届くことで、社会参加や暮らしやすさの実現も可能になるのではないかと考える。さらに、「4-1 事前調査について」でも述べた通り、近年、YouTubeなどで障害当事者が化粧を行う様子を発信している。主に、使用している化粧品や化粧方法を紹介している。これはピアサポートの一つであり、同じ障害や悩みを抱える人を勇気づけている。このような当事者の声が化粧品メーカーに届けば、商品開発にも取り入れられることもあるだろう。当事者の自己発信というものも、化粧を環境因子として位置付けるべきである。

最後に、化粧支援を行うこれからの課題として、若者向けの化粧への対応があげられる。SSPCでは、「自然で美しい化粧」が重要視されていたが、私たち若者にとっては「流行のメイク」を取得することも大きなニーズの一つである。近年では、赤やオレンジ、青、紫などはっきりとした色を取り入れる「カラーメイク」やK-POPアイドルのような「韓国メイク」、赤い目元と唇に血色感がない肌で病み感を出す「地雷メイク」など様々なタイプの化粧が広がっている。年齢や場面を問わない化粧技術を身に着けることも必要であるが、自分自身が楽しめる化粧を行うことが最も重要である。化粧には「楽しむ」「自分を好きになる」という根本があることを忘れてはならない。さらに、商品開発の場では、ジェンダーフリーな化粧品開発を行う企業が増加してきている。しかし、障害を持っている人を対象者とした化粧品展開を行っている企業は少ない。それぞれの障害によって特性があったり、人によってできる、できないの範囲が異なったりするため、一つの商品が大多数に当てはまるわけではないということが難しさでもある。しかし、「4-2 聞き取り調査と結果」でもあるように、身体機能の低下により、化粧をする上で課題に感じている場面が実際にある。化粧品開発の場面でも「障害」を忘れないでほしい。「3-2 障害者における化粧支援」で述べた、ユニバーサルデザインパレットは、使用するアイテムを一つにまとめてあることで、紛失を防ぎ、持ち運びが便利であるように工夫されてある。このような利点を取り入れ、機能性が高かったり、一つのアイテムで複数のポイントメイクが可能であったりすると肢体不自由者にとって利用しやすい環境となるはずである。

## 6. まとめ

自身が化粧を日常的に行っていたことや福祉施設での実習等から整容に占める支援時間の割合が短いと感じたことをきっかけに、障害者への化粧支援について調査した結果、肢

体不自由者が日常的に化粧を行うための環境設定が不十分であるという状況であり、肢体不自由者への化粧支援はまだ確立されていないと感じる。その日の気分や着る洋服のテイストによって化粧も変化する。障害の有無に関わらず満足できる化粧ができるようになって初めて化粧の楽しさ、生きがいを感じるができる。すべての人が化粧をするという選択肢が生まれるような社会環境になってほしい。また、今年はコロナ禍ということもあり、障害者施設や高齢者施設で行っているケアメイクの現場を直接見ることができなかった。今後、機会があれば化粧療法やバリアフリーファッションショーなど福祉と福祉以外の専門職との関わりを見聞きすることなど通して、学びを深めていきたい。

## 7. 謝辞

この研究を論文として形にすることができたのは、ご指導頂いたしてくださった端田専門ゼミナールの端田篤人准教授、伊藤英一博士、聞き取り調査を快く引き受けてくださったA様、自助具についての質問にご回答して頂いた神戸医療福祉専門学校三田校様の指導と協力の賜物である。心からの感謝の気持ちとお礼を申し上げる。

## 参考文献

- 1) 「化粧への包括的な支援の必要性-作業療法における支援-」 石橋仁美 2019
- 2) 一般社団法人日本ケアメイク協会 <https://caremake.jp/>
- 3) 「化粧を楽しむ生活を支援—作業療法の視点から—」 石橋仁美 2013
- 4) 「社会的行動障害の改善を目的とした SST グループ訓練」 岡村陽子、大塚恵美子 2010
- 5) 「総合リハビリテーション 20 巻 9 号」 井手睦、緒方甫 医学書院、1992
- 6) 共生社会政策統括官:「障害者の社会参加促進等に関する国際比較調査の概要 平成 18 年度」 <https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/tyosa/hikaku/gaiyou.html>
- 7) 化粧はマナー！？ ヨーロッパ人女性が化粧をしない理由(OTEKOMACHI 2018.12.14)<https://otekomachi.yomiuri.co.jp/news/20181214-OKT8T118709/>
- 8) Kaitlyn Dobrow: 「gold eyes&barbie pink lips!♡FULL FACE/CHIT CHAT GRWM♡」 <https://www.youtube.com/watch?v=-XPXAJFgXVQ>
- 9) ふくれな/fukurena 「ブスでも楽にメイクできる時代がきました。画期的なコスメでフルメイクしてみた！！」 <https://www.youtube.com/watch?v=wS-YEQSfqiM>
- 10) 「新・社会福祉士養成講座 1 人体の構造と機能及び疾病 第 3 版」 荘村明彦、中央法規出版株式会社、2018
- 11) 「国際生活機能分類—国際障害分類改訂版—」(日本語版) <https://www.mhlw.go.jp/houdou/2002/08/h0805-1.html>

## 付録

自分で化粧を行う上で画期的な化粧品や自助具、肢体不自由者にとって有効な情報を発信しているサイト等をまとめる。

### ○化粧品

- ・ excel パウダー&ペンシルアイブロウ EX  
ペンシル、パウダー、ブラシの3つの機能が一つになっている。  
HP <https://noevirgroup.jp/excel/g/g48711/>



図1 excel パウダー&ペンシルアイブロウ EX

- ・ AUBE ブラシひと塗りシャドウ N  
3色シャドウをブラシで一気にまとめて塗ることができ、グラデーションが簡単にできる。  
HP <https://www.sofina.co.jp/aube/>



\*インテージSRI調べ アイシャドウ市場  
2019年7月~2020年6月 ブランド別累計販売金額

図2 AUBE ブラシひと塗りシャドウ N

- ・チョソニア 22 C&T ブレンダーフレッシュミックスファンデーション  
ボタンを押すとファンデーションがでてき、スポンジ要らずでファンデーションを塗ることができる。

購入可能サイト <https://www.buyma.com/item/29322675/>



図3 チョソニア 22 C&T ブレンダーフレッシュミックスファンデーション

- ・KISS NEWYORK アイブロウスタンプ ナチュラルブラウンアーチ KPBSO6J  
眉毛の形がすでにスタンプになっており、押すだけで左右対称の眉が完成する。  
HP <https://www.kissnewyork.jp/>



図4 KISS NEWYORK アイブロウスタンプ

- ・資生堂 アイスクリームパーラーコスメティックス リップカード  
唇の形になったカードを押し当ててすることで、リップを塗ったように色を付けることができる。

購入可能サイト

[https://www.cosme.com/products/detail.php?product\\_id=176212&\\_ga=2.75936341.1990820075.1609410003-1867253509.1594104486](https://www.cosme.com/products/detail.php?product_id=176212&_ga=2.75936341.1990820075.1609410003-1867253509.1594104486)



図5 資生堂 アイスクリームパーラーコスメティックス リップカード

## ○自助具

### ・キャップもぐりんボックス(左)

ペン立ての中に食器用スポンジを入れ、先の細いタイプのキャップやボトルと立てておくことができる。

### ・マスカラキャッチくん(右)

小物入れの中にワンキャッチという固定具を貼り、マスカラやリップ等を挟んで使用する。マスカラやリップ等のボトル部分に指サックや輪ゴムを巻き付けると開け閉めの際にしっかりと固定することができる。

「金ちゃんの自助具コーナー」 <https://noucafe.amebaownd.com/pages/2538948/blog>



図6 キャップを立てておく自助具(左) マスカラやリップグロスを固定する自助具(右)

### ・片手でもメイクを楽しめる自助具 Bijou【ビジュ】

持ち運び用クリームケースの中心に鉛筆グリップがあり、化粧品を固定できる。

神戸医療福祉専門学校三田校 義肢装具士科 学生 <https://www.kmw.ac.jp/>



図7 Bijou 全体像



図 8 Bijou 説明図

○肢体不自由者にとって有効な情報を発信しているサイト等

・しょうこちゃんねる

【メイク動画】自分で化粧ができる喜び

[https://www.youtube.com/watch?v=wj1VRzyoHg&feature=emb\\_title](https://www.youtube.com/watch?v=wj1VRzyoHg&feature=emb_title)

頸髄損傷により車椅子で生活をしている当事者が「車いす女子の暮らし」を発信している。

・Co-Co Life☆女子部

<https://www.co-co.ne.jp/>

NPO 法人 施無畏(せむい)が発行するフリーペーパーである。

「オシャレ」「恋愛」「グルメ」など、普通の女性が好むカテゴリーに障害当事者ならではの必要情報をプラスして編集をしている。一歩踏み出すための「きっかけ」や、一緒にやりたいという「共感」を提供するメディアである。(Co-Co Life☆女子部 HP より)

端田専門ゼミナール令和2年度報告書  
令和3年2月7日発行

長野大学社会福祉学部社会福祉学科  
畠山咲 著

長野県上田市下之郷 658-1  
0268-39-0001(代表)